

新しい、FUJI

2018

ANNUAL REPORT

| 事業編 |

アニュアルレポート2018年3月期

スピード経営の推進により 企業価値の持続的向上に 取り組んでまいります

代表取締役社長

曾我 信之



2018年3月期(2017年4月1日から2018年3月31日)の
アニュアルレポートをお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社の2018年3月期の業績は、四半期毎に上方修正して
まいりましたが、最終的に2018年2月に修正した計画をも
超過達成することができました。2019年3月期におきまして
は、米中間の貿易摩擦や中東情勢の悪化など慎重な側面も
見受けられますが、2018年3月期に引き続き、世界経済の
基調は設備投資を含め、全体的に好調であると感じています。

2018年4月に当社は60周年を迎えると同時に、富士機械
製造株式会社から株式会社FUJIへと社名を変更いたしました。
理由は2つあります。1つは、社名をブランド名と統一
するためです。全体の売上に対し、海外の売上の占める割合が
約80%となっており、FUJIブランドと社名の統一を通して、
世界におけるブランディング戦略を強めていきたいと思っ
ています。もう1つは、業界や業種を超えた積極的なオープン
イノベーションを広く推進していくためです。「機械製造」と
いう言葉を除くことで、既存事業にとらわれることなく幅
広い分野での新製品の開発や販売がより円滑に行いやす
くなると感じております。開発や改革の時間軸を短期化して
いき、主力事業における画期的な製品やサービスの提供を
コンスタントに行っていくと同時に、新規事業の製品の市場
認知度向上・浸透を図っていきたくて思っております。

さて、2019年3月期より新中期経営目標を定めました。旧
中期経営目標では、ロボットソリューション事業本部は『ネク
ストステップ30』を掲げており、電子部品実装ロボット市場の
シェア30%を目標とし、概ね目標に達することができました。
2019年3月期より『FUJIブランド30』を制定し、継続的にシ
ェア30%以上を目標としていきます。マシンツール事業本部は
『利益体質の再構築』を掲げており、DLFnを中心とした販売
戦略を通して売上向上を狙い、基礎固めを行いました。2019
年3月期より『利益の徹底追求』とし、販売・技術・生産の3つの
分野と豊田工場・昆山之富士機械製造有限公司(以下、昆山富
士)・フジ マシン アメリカ コーポレイション(以下、FMAC)の
3つの拠点の戦略的連携を通してさらなる事業規模拡大を狙
います。新規事業は、『新事業創出』を掲げており、小型多関節
ロボットや移乗サポートロボットなど国内・海外展示会への
積極的な展開やオプションを多岐にわたりに追加することで事業
としての輪郭が見え始めています。2019年3月期より『3rd
Impact』を掲げ、会社全体のグローバル知財戦略の強化と
新規事業の本格的なビジネス化を迅速に推進していきます。

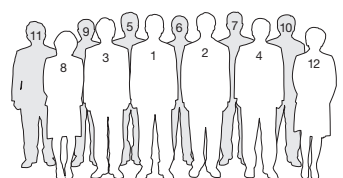
多様化かつ高度化するお客様のご要望にお応えでき
るよう、引き続き努めてまいります。これからも企業活動を通
じて環境や社会に貢献し、社会との調和のとれた持続可能な
発展を目指していきます。



役員

(注)※印の取締役および監査役は社外役員であります。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 代表取締役社長 曾我 信之 | 10 常勤監査役 畔柳 泰明 |
| 2 取締役 須原 信介 | 11 監査役 松田 茂樹* |
| 3 取締役 児玉 誠吾 | 12 監査役 山下 佳代子* |
| 4 取締役 河合 孝昌 | |
| 5 取締役 巽 光司 | |
| 6 取締役 江崎 一 | |
| 7 取締役 杉浦 昌明 | |
| 8 取締役 川合 伸子* | |
| 9 取締役 佐々木 元* | |





連結売上高
(2018年3月期)

1,200 億円



連結従業員数
(2018年3月末時点)

2,229 名



時価総額
(2018年3月末時点)

1,904 億円



自己資本比率
(2018年3月末時点)

81%



海外売上高比率
(2018年3月期)

84%



累計出荷国数
(2018年3月末時点)

60ヶ国以上



海外サービス
ネットワーク
(2018年3月末時点)

92 拠点



売上高研究開発
投資比率
(2018年3月期)

7%

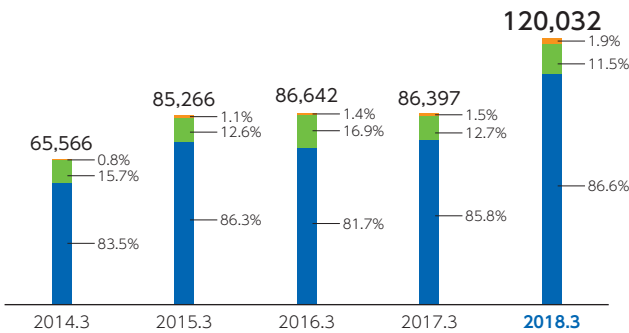


有休取得率
(2018年3月期)

83%

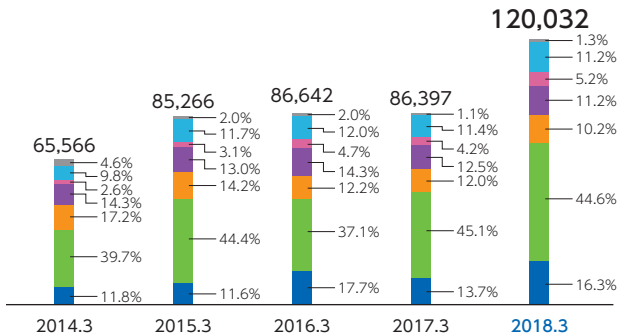
セグメント別連結売上高 (百万円)

■ ロボットソリューション事業
■ マシンツール事業 ■ その他



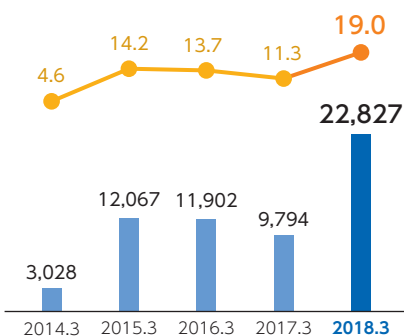
地域別連結売上高 (百万円)

■ 日本 ■ 中国 ■ 他アジア ■ 米国 ■ 他北米 ■ ヨーロッパ ■ その他



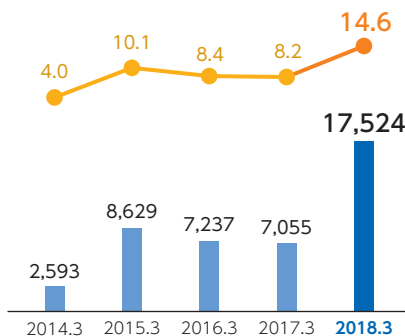
営業利益・営業利益率

■ 営業利益 (百万円)
● 営業利益率 (%)



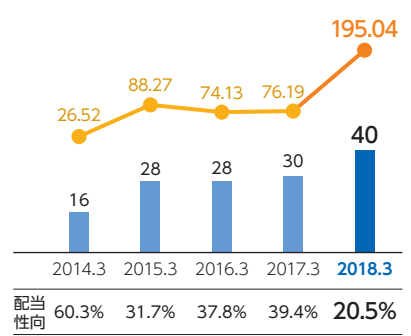
親会社株主に帰属する当期純利益
当期純利益率

■ 親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)
● 当期純利益率 (%)



1株当たり年間配当金
1株当たり当期純利益

■ 1株当たり年間配当金 (円)
● 1株当たり当期純利益 (円)



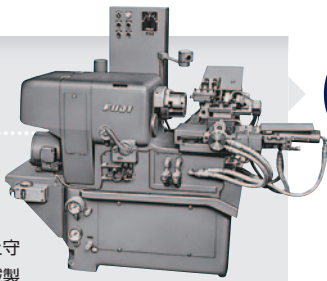
FUJIグループはおかげさまで 60周年を迎えました

2018年4月に創立60周年を迎えたFUJI。お客様に感動を与えられる製品づくりに真摯に取り組む60年のあゆみをご紹介します。

1959年

わずか170m²の 作業場からの船出

1959年4月7日、創業者・坂上守は同志13名とともに富士機械製造株式会社を設立。会社設立まもなく完成したFS型単能機は、その類を見ない高生産性から、一躍業界の寵児となりました。



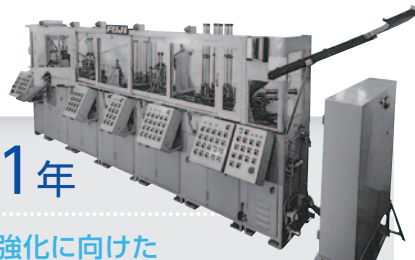
FS型単能機

1959

1971年

事業基盤強化に向けた 新分野へのチャレンジ

景気変動にも耐えうる経営基盤を作り上げるため、工作機械で培ったノウハウを活かして自動組立機を完成。様々な業種からの自動化要求に対して積み上げた技術蓄積が、後の電子部品自動組立機の開発へと繋がりました。



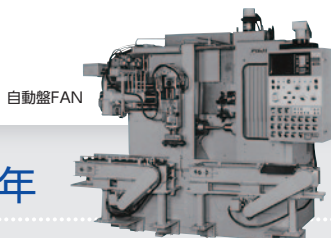
自動組立機

1970

1980年

NC機開発への本格参入

自動車業界の量産加工ラインにおける、加工ワークの複雑化によるNC化のニーズに応える形で、NC自動盤FANを開発。機械、電気、油圧が一体化した省スペース設計で、単能機的设计思想を活かした画期的なNC自動盤でした。



自動盤FAN

1980

2003年

電子部品実装の新コンセプト! NXTシリーズの登場

完全モジュール構造による自由なマシンレイアウトを可能にした、モジュール型高速多機能装着機NXTをリリース。現在まで進化を重ね、シリーズ累計7万モジュール以上の出荷を誇る、FUJIの歴史を象徴する名機が誕生しました。

モジュール型
高速多機能装着機NXT



1990

1994年

圧倒的人気を誇った電子部品自動装着機 CP-6リリース

累計で7,000台以上出荷された大ベストセラーCPシリーズの中でも、最も売れたのがCP6シリーズ。装着サイクルタイムが0.09秒/個と、当時世界最速を誇り、お客様から圧倒的な支持を受けました。



電子部品自動装着機CP-6

2000

2013年

NXTシリーズのDNAを 受け継いだDLFnの誕生

NXT開発で培ったモジュールコンセプトを、工作機械の開発にも応用して完成したモジュール型生産設備DLFnをリリース。これまでの工作機械の常識を覆す機械であり、工作機械業界に新しいモノづくりの形を提案しました。



モジュール型生産設備DLFn

2010

2016年

新たなビジネスモデル の確立へ

工作機械、電子部品実装ロボットに続く第3の事業の柱を求めて常に開発を続けているFUJI。地道な開発が実を結び、パブリックストックシステムQuist、移乗サポートロボットHugをリリースしました。



移乗サポートロボット
Hug [T1]

2018

2018年

新たな歴史を刻んでいく 「株式会社FUJI」へ

創立60周年を機に、「株式会社FUJI」へ社名変更。グローバルブランド「FUJI」として、100年企業に向け新たな一歩を踏み出しました。

市場領域の開拓と全面的な製品力の向上を通して、マーケット牽引力を強めていきます

2019年3月期からの中期経営目標では、電子部品実装ロボットだけでなく、印刷機や周辺機器を含めた各種製品ラインアップの機能向上を通して、継続的なマーケットシェア拡大を目指します。開発面では、新機種の市場投入、ソフトウェアや基幹ユニットの品質向上、そして生産ラインのIoTを実現するFUJI Smart Factoryにおいて、キーとなる統合生産システムNeximの他社連携を加速させていきます。営業面では、車載やスマート機器関連などの成長市場での新規顧客獲得、生産ライン内の前後工程市場の攻略、FUJI Smart Factoryの拡販などを重点的に行ってまいります。生産面では、作業効率を10%向上させつつ高品質を保つ標準化の徹底や、新機種の販売に向けた生産ラインの構築、IoTを活用した物流改革に取り組んでまいります。

お客様の活発な設備投資に柔軟に対応するため、独創的な製品をタイムリーに市場投入できる体制づくりに、より一層注力してまいります。



副社長執行役員
ロボットソリューション事業本部本部長

須原 信介

2018年3月期市場環境

- 世界的景況感の改善に伴い、電子機器全般が堅調に推移
- 中国市場における家電製品への投資や部品関連の投資が活発化

2018年3月期実績

- ドイツの電子部品自動倉庫製造会社TowerFactoryの買収により、製品ラインアップを拡充
- アマゾン ウェブ サービスを利用し、生産状況を手元端末で確認できる「FUJI Mobile App」の市場投入
- Nokia社が提唱する「factory in a box」コンセプトに参画

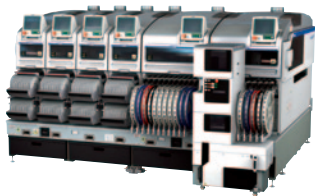
製品の特徴／強み

- 1 独自の小型モジュラーデザインにより、面積生産性の最大化を実現
- 2 ユニット交換を行うことで、ライン構成の変更に対応し、ラインを停止せずにメンテナンス可能

主要顧客

- ◎ 通信機器メーカー
- ◎ 家電メーカー
- ◎ 車載関連メーカー など

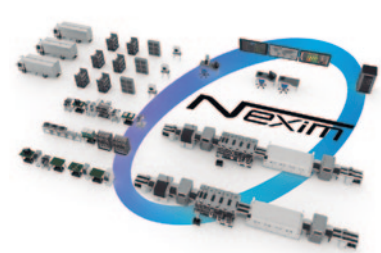
電子部品実装ロボット



汎用自動組立機

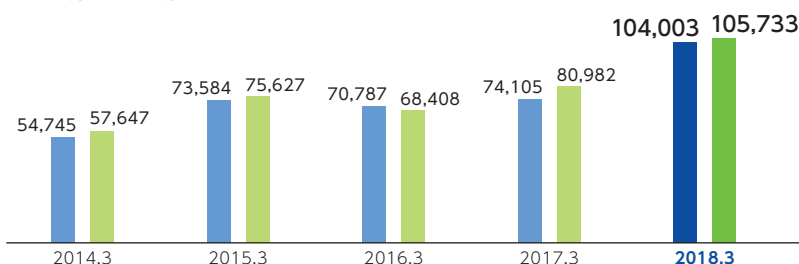


統合生産システム



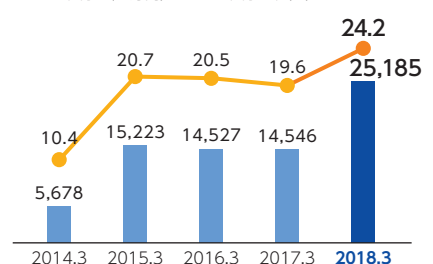
売上高・受注高 (百万円)

■ 売上高 ■ 受注高



営業利益・営業利益率

■ 営業利益 (百万円) ● 営業利益率 (%)



FUJIグループ全体での連携を強め、 事業価値を高めてまいります

2019年3月期からの中期経営目標では、販売・技術・生産の各機能と豊田工場・昆山富士・FMACの各拠点の総合連携力を強めることで事業価値の向上を目指します。開発面では、自動車関連のみならず新市場のニーズを視野に入れた新製品開発や既存機種の高品質向上に加え、徹底的なコストダウンを行ってまいります。また、お客様のご要望に柔軟かつ迅速に対応できるよう、設計標準化を進めてまいります。営業面では、中国・昆山富士との連携強化により、中国での販売力を高めるとともに、タイムリーな情報共有を通して営業技術力の向上に努めます。生産面では、IoT活用による生産情報の一元管理により、効率的な計画生産を徹底し、リードタイム短縮に繋げてまいります。

お客様の工場全体の生産効率向上を目指し、ご要望にお応えできるよう、より高い品質とサポートで事業部一丸となって取り組んでまいります。



専務執行役員
マシンツール事業本部本部長
豊田工場工場長

河合 孝昌

2018年3月期市場環境

- 国内外ともに積極的な投資姿勢、中国の需要が全体を押し上げ
- 市場全体において潜在需要があり、堅調に推移

2018年3月期実績

- 昆山富士の中国市場での総代理店化
- 米国のNexteer Automotive社よりトップサプライヤー賞受賞

製品の特徴／強み

- 1 高出力な回転工具が搭載された複合旋盤で生産ラインの自動化に最適
- 2 モジュール型生産設備はベースモジュールに搬送ロボットを搭載し、ロスタイムの軽減と従来機の半分以下のライン全長を実現

主要顧客

- ◎自動車部品メーカー
- ◎ベアリングメーカー など

横型NC旋盤

TN SERIES



正面2スピンドル旋盤

CS SERIES

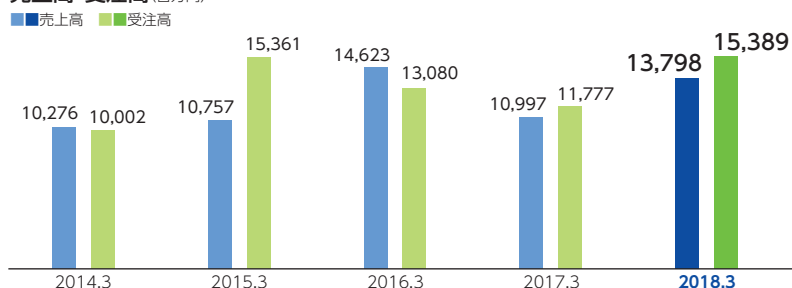


モジュール型生産設備

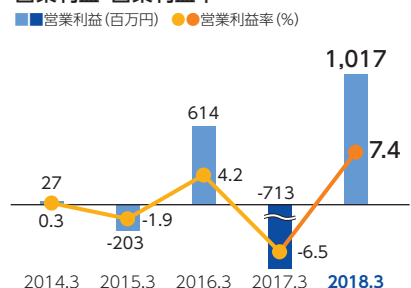
DLF n



売上高・受注高 (百万円)



営業利益・営業利益率



新規開発製品の事業化と多元的な次世代開発の醸成を展開してまいります

2018年3月期の実績としては、小型多関節ロボットSmartWingの市場投入、超高密度大気圧プラズマユニットTough Plasmaの新機種発売開始などがございます。

また、2019年3月期より取り組む新たな中期経営目標といたしましては、これら開発製品の市場におけるプレゼンスの向上を狙うとともに、市場での細かなニーズを的確に捉え、製品改良やオプション開発などにスピード感を持って取り組み、お客様満足度を高めていきます。

開発姿勢としましては、社員同士の自由な発想と活発な意見交換を通して、将来を見据えた既存事業に捉われない次世代技術・製品の開発を常に行っております。

昨年米国・シリコンバレーに開設したFUJI Innovation Lab.なども積極的に活用し、新たな製品開発力への展開を加速し、お客様に感動を与えられる製品づくりに今後も貪欲に取り組んでまいります。



専務執行役員
開発センター長

児玉 誠吾



小型多関節ロボット [SmartWing]

スリムな構造が特長の1つで、これまでにない密集配置を可能としています。複数のロボットを連係させてティーチング不要で様々な工程を自動化できます。また、自動化現場での垂直立上とマスカスタマイゼーションを実現する革新的なシステムの確立を目指しています。

移乗サポートロボット[Hug]

ベッドから車椅子、車椅子からお手洗いといった座位間の移乗動作や、脱衣所での立位保持を補助します。体の不自由な人の脚力を活かしながら、最小限の介助で移乗することが可能です。



施設用

在宅用



パブリックストックシステム[Quist]



(使用イメージ)

ネットスーパーや通販で注文した生鮮食品、日用品を専用ボックスで受け取る「新しい買い物システム」を手がけています。日常の買い物負担を軽減し、忙しい毎日を送る方々の生活を支援するものとなるようシステム開発に取り組んでいます。

超高密度 大気圧プラズマユニット[Tough Plasma]

水や有機溶剤を使うことなく、汚れを分子レベルで分解・除去する装置であり、熱に弱いゴムや樹脂に対してもプラズマ照射が可能です。一般的な大気圧プラズマの200倍以上(当社調査データによる)の高い電子密度を実現し、ポリプロピレンなどの難接合材料の接着力向上に利用されています。



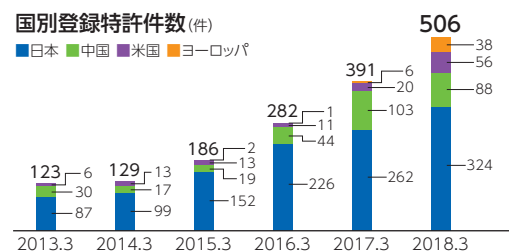
知的財産戦略

グローバルに事業競争力を強化する知財戦略

FUJIIは、事業戦略、技術戦略、知財戦略が三位一体となった知財活動を進めています。さらに、日本のみならず、中国、米国、ヨーロッパに積極的に特許出願を行っています。その結果、登録特許件数は、5年で約4倍に増えました。電子部品実装ロボット、工作機械をはじめ、新規事業においても、旺盛な発明意欲に支えられた技術開発にスピーディに応えていけるよう、今後も継続して事業競争力強化に繋がる知財戦略を展開してまいります。

国別登録特許件数(件)

■日本 ■中国 ■米国 ■ヨーロッパ



成長に向けた戦略的投資と安定的な株主還元の継続に努めます

当社は、高水準の研究開発投資を継続し、主力製品の競争力の維持に努めるとともに、将来の成長に向けた設備投資や新規事業への戦略的投資も積極的に進めていくことで、企業価値の増大を目指しております。

また、株主価値向上の観点から、資本効率の向上、継続的な株主還元にも経営の最重要政策として取り組んでおります。

当社の主力事業は、世界的な景気変動の影響を受けやすく当社業績も大きく変動することが避けられませんが、そうした環境下でも安定的な配当の維持・継続に努めてまいり所存です。

同時に、自己株式の取得も資本効率向上の有効な施策のひとつと捉えており、2017年3月期には、総額100億円の自己株式取得を実施いたしました。今後も引き続き重要な資本政策の選択肢と位置づけ、当社の業績、株式市場の動向などを勘案し、適切かつ機動的な実施を検討してまいります。



執行役員
経理部部長

翼 光司

さらなる成長を目指して、ソリューション・グローバル化・マーケティングを推進します

事業拡大、成長を加速させるにあたり、3つの要素を並行して行うのではなく、事業毎にプライオリティをつけて様々なリソースを有効的に投入していきます。また、営業戦略を軸として、M&Aや技術提携も有効な手法として戦略的に取り入れ、よりスピーディな事業競争力強化に取り組んでまいります。

2018年3月期の実績としては、ロボットソリューション事業ではオートインサーターsFAB-α、電子部品自動倉庫sTower IIの開発により、電子部品実装ロボット前後工程のラインアップを拡充いたしました。マシンツール事業では昆山富士を中国市場の総代理店とし、販売力を強化しました。新規事業では小型多関節ロボットSmartWing、移乗サポートロボットHugの販売強化に向け、全国に代理店網を築きました。

今後も市場のニーズを的確に捉え、新しい価値をよりスピーディに提供していくことで、効果的な営業戦略を展開してまいります。



執行役員
マシンツール事業本部副本部長

江崎 一

ソリューション

- ロボットソリューション事業—電子部品実装ロボット前後工程への提案力強化
- マシンツール事業—豊田工場・昆山富士・FMACの協働、営業技術力強化
- 新規事業(SmartWing)—FUJIグループをあげてシステムインテグレーション力強化

グローバル化

- マシンツール事業—中国(昆山富士)の販売・生産強化、欧州など新市場の開拓

効果的なリソースの投入

マーケティング

- マシンツール事業—DLFnの市場構築
- 新規事業(Hug)—介護ロボットから医療関連ロボットへの発展ロードマップ作成

ESGを意識したモノづくりを推進し、豊かな社会づくりに貢献し続けます

当グループは“モノづくり企業”として『需要家の信頼に応え、たゆまぬ研究開発に努め、最高の技術を提供する』を社訓とし、企業理念をつくりあげてまいりました。

株主様、お客様、お取引先、従業員、地域社会の皆様とのしっかりとした絆を基盤とし、日々の企業活動に取り組んでいます。世界有数のロボットメーカーとして、産業用ロボットである電子部品実装ロボット、ロボット搬送システムを搭載した工作機械など、常に新しい価値と市場を創造してまいります。これら企業活動により、社会とともに持続可能な発展を目指し、企業の社会的責任を全うしてまいります。



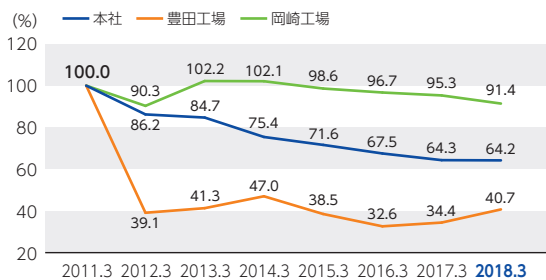
環境基本方針

環境保全活動を経営課題の1つと位置づけ、豊かで美しい自然環境を次世代に残すため、全社をあげて環境保全活動に取り組んでいます。地球環境の保全が人類共通の最重要課題の1つであることを認識し、環境に配慮した企業活動を実施します。

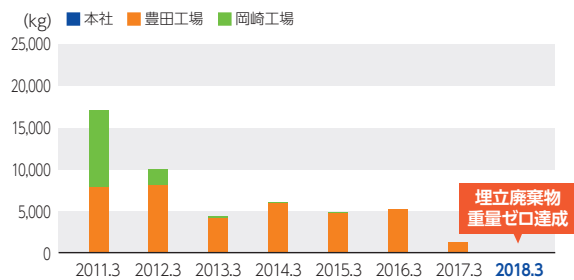
環境管理5ヵ年計画(2017年3月期～2021年3月期)

活動項目	2019年3月期目標
地球温暖化防止対策	生産効率向上、省エネ活動の啓蒙・推進など
	エネルギー消費原単位1%削減(2018年3月期比)
資源循環推進	省資源活動の啓蒙・推進など
製品対策	環境配慮(省電力・省スペース)製品の開発

エネルギー消費原単位の推移 (2011年3月期を100%とした場合)



埋立廃棄物重量

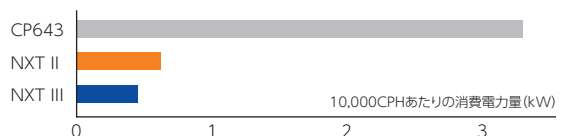


省エネルギー工場

豊田工場第7工場(機械加工工場)は、地熱を利用した空調(クールヒートチューブ)を導入しています。クールヒートチューブとは、外気を地中に埋設した配管に通してから空調機器に供給する方式です。空調負荷が低減し、消費エネルギーの削減、空調コストの削減とともにCO₂排出量も削減し、環境保全にも貢献します。



省エネルギー製品の開発



上のグラフは、10,000CPH(1時間あたりの電子部品装着点数)を達成するのに必要な消費電力量です。「NXTⅢ」を用いると、従来機種「NXTⅡ」と比べてチップ一点あたりの消費電力を26%(前シリーズ機種「CP643」と比べて88%)削減できます。

Society
社会

企業活動を継続していく中で、社会の一員として、ステークホルダーと調和の取れた発展を目指していきます。

地域社会

地域社会の一員として、「地域の皆様に愛され、親しまれるFUJI」を目指して様々な活動を展開しています。

複合施設「THANK」の運営

小学生向けに科学実験などを通して活きた英語を教える「teracoya THANK」でプログラミング授業を開始しました。世界に通じるエンジニアの育成に努めます。また、「thirty nine cafe」も併設しており、地域社会のさらなる活性化に取り組んでいます。

IR

株主様、投資家様と長期的に安定した関係を築くため、適切な利益配分と適正・公平かつタイムリーな情報開示に取り組んでいます。

2018年3月期取り組み事例

株主の権利・平等性の確保	IRイベント参加
	アニュアル・レポートの発行(和英) 英文短信、英文資料の作成と開示
適切な情報開示と透明性の確保	プレスリリースの活用による積極的な情報配信
	ガバナンス報告書の更新

職場環境

FUJIでは従業員がより生き生きと働くことができる活力ある職場づくりに努めており、働く環境の整備・充実を進めています。

ダイバーシティに関する取り組み

育児休業、育児短縮勤務、介護休業、短時間勤務制度、看護休暇制度など、多様な働き方、仕事と育児・介護の両立を支援する制度の充実を図っています。また、社会貢献活動を行う社員に対してボランティア休暇制度も用意しています。毎週金曜日の会社全体ノー残業デーの設定も行っており、ワークライフバランスにも積極的に取り組んでいます。

労働安全衛生に関する取り組み

安全衛生委員会を設置し、定期的に職場をパトロールし、生産現場だけではなくオフィスの改善活動も積極的に推し進め、労働災害防止に取り組んでいます。また、産業医面談制度、メンタルヘルス・ハラスメントに関する相談窓口も設置し、社員の肉体系・精神面の健康も支援しています。

人材育成への取り組み

若手教育や中堅社員教育に力を入れています。入社1年目の技術系社員向けに創開塾を開いています。配属前に入塾し、専攻外の知識の習得と実践的なロボットの開発を行うことで、仕事を遂行する前の1つの経験として生みの苦しみや開発の達成感を感じてもらいます。また、組織内での統率力や円滑なコミュニケーションの方法などを学ぶリーダー研修、海外で活躍できる人材を育てるグローバル教育なども実施し、社内教育の充実を図っています。

Governance
ガバナンス

基本的な考え方

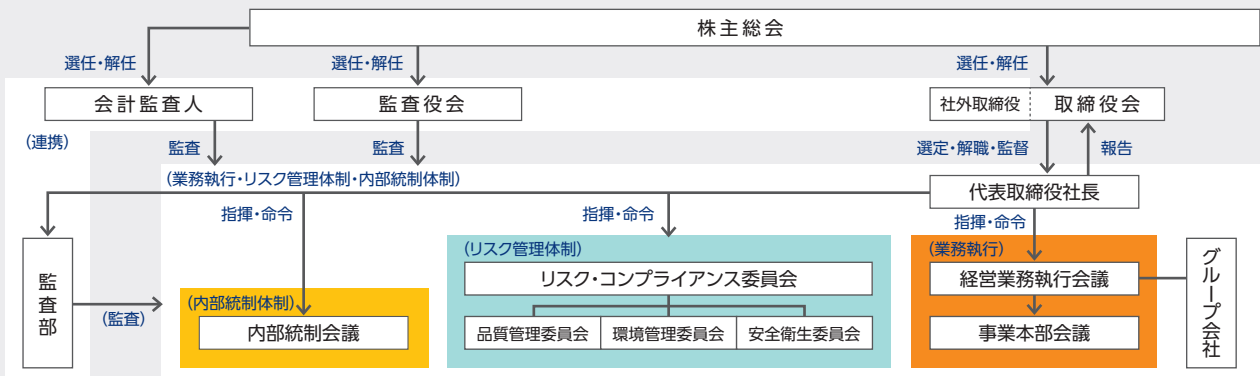
当グループは、株主様、お客様、お取引先及び従業員にとってより高い企業価値の創造に努めることを重要課題と認識し、経営環境の変化に迅速かつ的確に対応できる組織体制と公正かつ透明性のある経営システムの構築・充実ならびにリスク・コンプライアンス体制の強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制

取締役の人数	9名	(うち社外取締役の人数2名)
監査役の人数	3名	(うち社外監査役の人数2名)
独立役員の数	4名	
取締役会の年間開催数	13回	(予定)
取締役の任期	1年	
執行役員制度の採用	有	
執行役員の数	13名	

2018年6月28日現在

コーポレート・ガバナンス体制図





フジ アメリカ
コーポレーション

社長 古川 裕

北米地域の営業力強化と市場シェアのさらなる拡大を目指して

当社は電子部品実装ロボットの北米における総販売元として、販売網の整備による営業力強化とアフターサービス力の向上により、市場シェアのさらなる拡大を目指します。短期的には適切な人員配置によってサポート体制の構築を推し進め、中長期的には、お客様の多岐にわたるご要望に対し、迅速かつ柔軟に対応ができるよう人材教育に力を注ぎ、高品質なお客様サポートをご提供できるよう努めてまいります。

販売商品のラインアップは主力製品のモジュール型高速多機能装着機NXTIII、拡張型オールインワン装着機AIMEXIIIを中心とし、さらにFUJII Smart Factoryの構築を見据えた統合生産システムNeximの拡販にも努めてまいります。

また、FUJIIブランドの優位性を維持するために、FUJII本社と連携を強固にすることで、より一層、スピード感を持った製品開発に繋げていきます。

コーポレートスローガンである『お客様に感動を!』を念頭におきながら、業務効率の向上を図りプロフェッショナルな人材を育て、顧客満足度を高めることに注力していきます。



フジ マシン アメリカ
コーポレーション

社長 大地 英二

最適な生産効率をFUJII工作機械でサポート

北米及び、中南米でもワークの脱着・搬送をロボットで繋ぐ生産ラインの自動化が進んできています。

FUJIIは、産業用ロボットメーカーかつ工作機械メーカーである強みを活かして、独自のロボット技術を製品開発の中に落とし込むことで安定的な精度を保ち、高効率かつ生産性に優れた生産ラインをお客様にご提案いたします。

2018年3月期では、中南米での本格的な自動化に対応してサービス部門の再構築を行い、メキシコ、南米でのパーツサポート、カスタマーサービス強化に加えて、米州での24時間体制のコールセンターサービスを開始いたしました。

2019年3月期では既存のお客様に加えて、新規市場のお客様にもFUJIIの工作機械で最適な効率性と生産性をご提供できるように、営業・エンジニアリング部門の改善を行いながら、マーケティング力、ターンキーソリューションの充実とともにローカルサプライチェーンの構築を実施いたします。



フジ ヨーロッパ コーポレーション
ゲーエムペーハー

社長 クラウス グロス

お客様満足度向上に向けた取り組みの強化

『新規顧客の獲得』、『総合的な顧客満足』、『社内コミュニケーションの円滑化』この3つのテーマを柱とし、当社は順調に成長を続けてまいりました。

さらなる成長戦略として当社は、スマートホーム、LEDアプリケーション、自動運転、医療エレクトロニクスなどの新たな成長市場に参入してまいります。

当社は2018年4月、社名をフジ ヨーロッパ コーポレーションに変更するとともにマインツ市よりケルスターパッハ市へ新社屋を移転しました。この新社屋は、近代性・革新性を象徴しており、お客様へのデモンストレーションやトレーニング、装置の修理、ピデオ会議などより良いサービスの提供に役立っています。

ドイツで発足した『SEF-Smart Electronic Factory』委員会の創設時からのメンバーでもある当社では、マーケティングおよび広報活動を行っており、インダストリー4.0及びIoTへの対応を実現し、今後の持続的な成長と市場シェア拡大について、前向きに取り組んでまいります。



タワーファクトリー
ゲーエムペーハー

社長 ピエール メネヒ

スタートアップ企業から優良企業へ

『必要な部品を必要な時に必要な場所で』。当社の革新的な電子部品自動倉庫は、実装機業界へ進出した際に、このメッセージとともに発表されました。当社は2013年に起業し、現在は主要製品のs | tower Various 773/930販売台数が、100台近くにのぼります。

市場の需要は、自動化、いわゆるインダストリー4.0に大きく牽引されており、生産現場においては、部品切れやダウンタイムを削減することが求められています。当社の製品は、上位のMESシステムに接続することにより、効率の良い部品の払い出しを実現しております。

今後の目標として、国際販売・サービス体制の確立を目指しつつ、特に市場全体に、より良い提案をしていくための販売力の強化と継続的な製品開発にも注力し、電子部品自動倉庫業界におけるマーケットリーダーを目指します。



富社(上海)商貿有限公司

副總經理 黃建偉

FUJIブランド力の強化とソフトウェア開発の現地化

第5世代モバイルネットワーク(5G)の2020年商用化、車載電子基板の増加などにより中国電子部品実装ロボット市場の需要は依然として堅調に推移すると予想されています。電子部品実装ロボットのマーケットシェアを拡大するためには、今まで以上のスピーディな顧客対応力、充実したサービス内容の提供が要求されています。

まず、従来の修理サービス業務において、現地対応力強化に向け、教育研修制度をさらに整備、充実させていきます。営業面においては、FUJI Smart Factoryをコンセプトとしたショールームを2019年3月期に昆山、東莞の両拠点で完成させ、そのコンセプトを実際に体験していただくことでお客様に驚きと感動を与え、FUJIブランドの魅力をより一層強く伝えていきます。

技術開発面においては、Smart Factoryを支えるIoTやビッグデータ技術を中国のお客様のニーズに合わせて迅速に提供するため、中国ローカルソフトエンジニアを中心とするシステム・ソフトウェア開発チームを2019年3月期に立ち上げ、ソフトのカスタマイズ完全現地化を2021年3月期までに完成させていきます。



昆山之富士機械製造有限公司

總經理 盛世緯

開発・生産・販売 三位一体の総合力強化

2018年3月期では、中国の堅調な設備投資に支えられ、主力機種であるクリーム半田印刷機GPX-Cシリーズ、自動旋盤CSDシリーズの販売が拡大し、増収増益となりました。今後、中国第5世代モバイルネットワーク(5G)の商用化に加え、自動車生産量(2018年3,000万台)のさらなる増加により、2019年3月期においても業績の拡大を見込んでおります。

中国政府が提唱する「中国製造2025」(中国版Industry4.0)、及び中国国内の件費高騰が追い風となって設備自動化の波が予想よりも早く来ており、当社はこの波に乗らなければなりません。

クリーム半田印刷機において、2019年3月期の販売量は2018年3月期の倍増を目指し、2021年3月期には中国市場シェア30%を目指します。工作機械においても、当社のターンキーソリューション及びサービス力・販売力を高め、2019年3月期の販売量は2018年3月期の倍増を目指し、2021年3月期には当社製の新機種販売開始を目指しています。

当社の設計・生産能力をさらに高め、自動化ラインの周辺装置を独自で開発・生産・販売する拠点として持続的な成長をしていけるよう努めてまいります。

フジド ブラジル マキナス
インダストリアイス リミターダ

社長 ドミンゴス トミヤマ

南米地域の事業体制強化

南米における産業の大半は経済危機および政治的困難に見舞われており、当社も数年に及び、厳しい状況に直面してきました。

このような情勢のなかでも、引き続き以下の戦略のもと、総力を挙げて業務にまい進してまいります。

1. 業界トップクラスのアフターサービス、人材スキルアップへの投資、及び熟練技術者の最新トレーニング。
2. FUJI Smart Factoryを活用したターンキー方式の完全な電子部品実装ラインソリューション、及び工程全体に対するプロセスサポートを含めた全面的な技術サポートの提供。
3. お客様のご要望にお応えし、周辺装置などラインアップの拡充及び装置下取りを通じ、より多くのビジネスを創出。こうした戦略は、当社のコーポレート・ガバナンス、リスクマネジメントの原則によって維持され、企業の社会的責任を伴って成し遂げられると考えております。

市場の好転に備え、事業構造の縮小ではなく強化を図ることで、南米におけるチャンスをつかんでまいります。

会社概要

商号	株式会社FUJI FUJI CORPORATION	上場市場	東京証券取引所市場第一部 名古屋証券取引所市場第一部
本社所在地	愛知県知立市山町茶碓山19番地	主要な事業内容	電子部品実装ロボットならびに 工作機械ほかの製造、販売
設立	1959年4月	従業員数	連結2,229名 単体1,652名 (2018年3月31日現在)
資本金	5,879百万円		

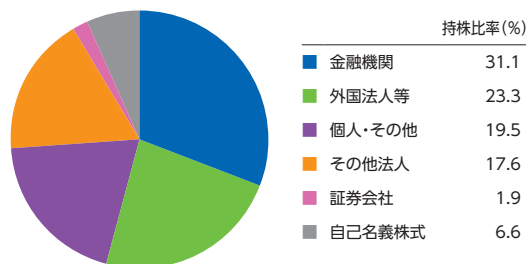
株式の状況

(2018年3月31日現在)

発行可能株式総数	390,000,000株
発行済株式の総数	97,823,748株
株主数	11,366名
大株主(上位10名)	

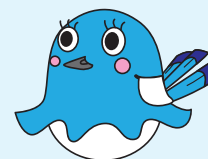
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
大同生命保険株式会社	6,684	7.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,341	4.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,668	4.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,235	3.5
富士取引先持株会	2,900	3.1
有限会社サカガミ	2,400	2.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,305	2.5
株式会社名古屋銀行	1,554	1.7
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,483	1.6
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,226	1.3

所有者別分布状況



マスコットキャラクターのご紹介

皆様からより愛される会社を目指したマスコットキャラクター「FUJILALA (フジララ)」です。よろしくお願いたします。



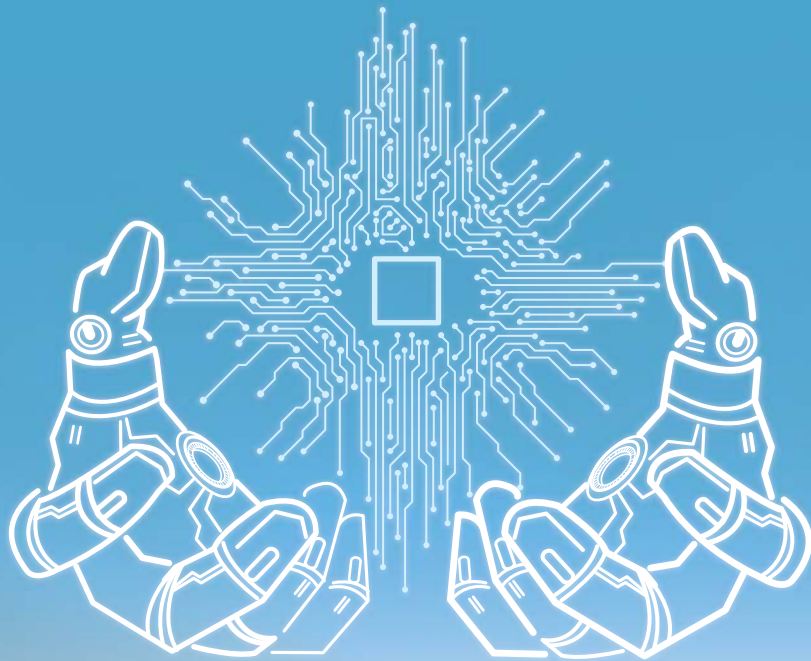
(注) 1. 当社所有の自己株式(6,477,857株)については、上記上位10名の株主から除外しております。
 2. 持株数は千株未満を切り捨て、持株比率は自己株式を控除して計算しております。
 3. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、平成30年4月1日付で株式会社三菱UFJ銀行に社名を変更しております。
 4. 富士取引先持株会は、平成30年4月1日付でFUJI取引先持株会に名称を変更しております。

連結子会社

会社名	所在地	設立	主要な事業内容
フジ アメリカ コーポレーション	米国イリノイ州バーノンヒル	1970年 4月	当社製品(電子部品実装ロボット)の販売
フジ マシン アメリカ コーポレーション	米国イリノイ州バーノンヒル	1994年11月	当社製品(工作機械)の販売
フジ ヨーロッパ コーポレーション ゲーエムベーハー	独国ケルスターバッハ	1991年11月	当社製品(電子部品実装ロボット)の販売
タワーファクトリー ゲーエムベーハー	独国フリーベルグ	2013年 2月	電子部品実装ロボット周辺装置の製造・販売
フジ ド ブラジル マキナス インダストリアイス リミターダ	ブラジル国サンパウロ州 サンパウロ	1995年11月	当社製品(電子部品実装ロボット)の販売
富社(上海)商貿有限公司	中国上海	2007年11月	当社製品(電子部品実装ロボット)の メンテナンス・アフターサービス
昆山之富士機械製造有限公司	中国昆山	2012年 1月	当社製品の製造・販売
株式会社アドテック富士	愛知県岡崎市	1977年 4月	電子部品実装ロボットの製造、工作機械の改造修理
株式会社エデックリンセイシステム	愛知県豊橋市	1992年11月	電子部品実装ロボット関連ユニットの製造

FUJI robots lead the way

ロボットで未来を拓くFUJI



電子部品実装ロボット



工作機械（垂直多関節ロボット）



小型多関節ロボット



移乗サポートロボット



パブリックストックシステム



超高密度大気圧プラズマユニット

株式会社 FUJI

〒472-8686 愛知県知立市山町茶碓山19番地
TEL (0566) 81-2111(代表) www.fuji.co.jp

富士機械製造株式会社は、「株式会社FUJI」に社名変更しました。